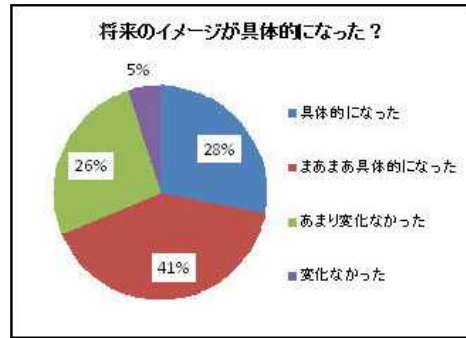
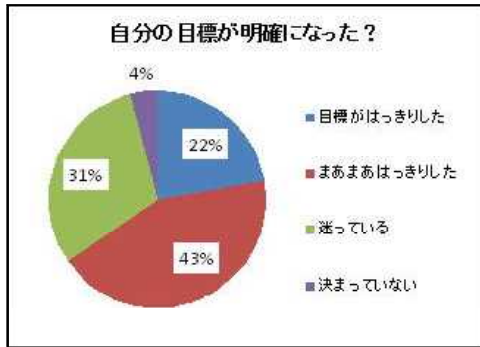


【別紙様式1】
キャリア教育・職業教育推進事業実践報告書

教育局	後志教育局	学 校	北海道岩内高等学校
1 実施テーマ	入学から卒業までを見通した系統的なキャリア教育・職業教育の充実		
2 実施のねらい	系統的なキャリア教育・職業教育の充実を図ることにより、生徒の、社会人としての望ましい勤労観・職業観を育てる。		
3 計画の概要	<p>【第一年次】</p> <p>① キャリア教育の全体計画と「総合的な学習の時間 [CAST]」活動 計画の工夫・改善を図る。</p> <p>② 大学等と連携して実施するとともに、工夫・改善を図る。</p> <p>③ 1学年のキャリア教育・職業教育のプログラムを確立する</p> <p>【第二年次】</p> <p>① キャリア教育の全体計画と「総合的な学習の時間 [CAST]」活動 計画の工夫・改善を図る。</p> <p>② 職業講話、インターンシップ、大学生等とのワークショップ「カタリバ北海道」を実施するとともに、職業体験やワークショップ等を通して、自己の将来を見通した今後の高校生活の在り方について考えさせる。</p> <p>③ 2学年のキャリア教育・職業教育のプログラムを確立する。</p> <p>【第三年次】</p> <p>① キャリア教育の全体計画と「総合的な学習の時間 [CAST]」活動 計画の工夫・改善を図る。</p> <p>② 長期企業実習（4日程度）を実施するとともに、工夫・改善を図り、望ましい職業観や勤労観を育成し、生徒自身の目指す社会人としての在り方について考えさせる。</p> <p>③ 3学年と卒業後に向けたキャリア教育・職業教育のプログラムを確立する。</p> <p>④ 上記の取組により、コミュニケーション力を養い生徒の就職及び進学における適応力を向上させるとともに、就職及び進学後に個別に連絡を取るなど卒業後のサポート体制を充実させ、進路先での定着を図る。</p>		
4 体系的な取組	<p>○ 社会的・職業的自立に必要な力の育成を目指した系統的な学習プログラムの実施</p> <p>1 学年</p> <p>■ 自らの可能性を幅広く探究する</p> <p>ライフプラン講演会、職業講話会、進路相談会、進路体験学習、思春期教室等</p> <p>育成したい能力等</p> <p>○人間関係形成能力・社会形成能力、 ○課題対応能力</p> <p>2 学年</p> <p>■ 自らの可能性を大局的に吟味する</p> <p>ライフプラン講演会、職業講話会、大学生とのワークショップ「カタリバ」、進大学出張講義、路体験学習、先輩講話</p> <p>育成したい能力等</p> <p>○課題対応能力・勤労観・職業観、 ○自己理解・自己管理能力</p> <p>3 学年</p> <p>■ 現実的な視点で自己の在り方、生き方選択・決定する</p> <p>ライフプラン講演会、キャリア教育講演会、思春期教室、大学出張講義</p> <p>育成したい能力等</p> <p>○人間関係形成・社会形成能力</p>		

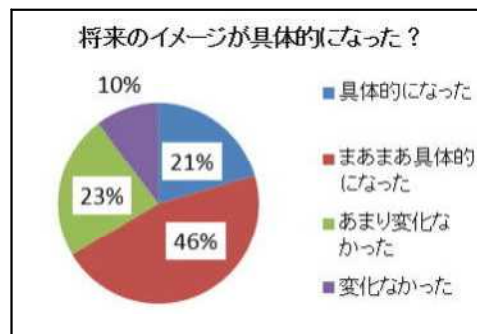
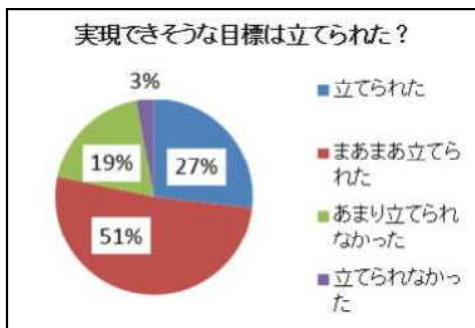
5 実施内容と自己評価		評 価			
		A	B	C	D
(1) 大学生等とのワークショップ					
第一 年次	2月 3年生(先輩)とのワークショップ(3年生徒25名、1年生徒122名) 先輩を語り手(高校生活のロールモデル)として、グループ毎に対話型 ワークショップを行う。(2月19日実施予定)	○			
第二 年次	6月 大学生とのワークショップ(大学生33名、生徒122名) 「カタリバ」実施。2年生が大学生の体験談を聞いたり、生徒が悩みを 相談する。	○			
第三 年次	9月 社会人とのワークショップ(社会人18名、生徒150名) 社会人(地域在住・様々な分野)に語り手(ロールモデル)として、グ ループ毎に対話型ワークショップを行う。	○			
(2) 大学等との連携					
第一 年次	8月 大学等の教員による模擬講義(生徒13名) 10月 専門学校講師による職業体験実習の実施	○	○		
第二 年次	8月 大学等の教員による模擬講義(生徒13名) 11月 専門学校講師によるコース別進路ガイダンスの実施	○	○		
第三 年次	8月 大学等の教員による模擬講義(生徒16名)		○		
(3) 長期企業実習					
第一 年次	10月 長期企業実習のための社会人講話の実施(生徒122名)		○		
第二 年次	6月 事務情報科生徒20名によるインターンシップ 7月 普通科生徒 名による夏季休業中のインターンシップ		○ ○		
第三 年次	8月 就職希望者を対象にした長期企業実習	○			

6 実践の成果	
(1) 大学生等とのワークショップ	
○ 2月に実施した1学年と3年生とのワークショップでは、進路を決定し卒業していく3年生から高校生活の経験を直接聞きながらこれからの高校生活について相談する良い機会となった。事後アンケートでも約7割の生徒が「自分の目標が明確になった」、「将来のイメージが具体的になった」と答えており、1年生のこれからの高校生活に大きな指針を与え、自分の将来のことについて真剣に考えるようになった。	



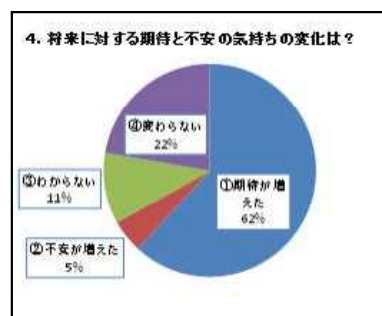
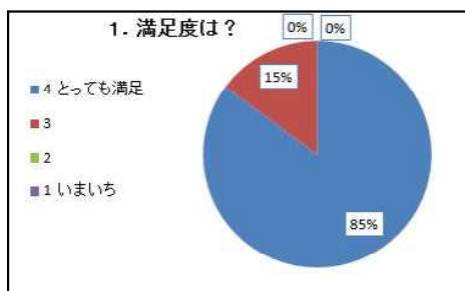
「3年生とのワークショップ」活動後の生徒の変容のグラフ

- 6月に実施した2学年と大学生とのワークショップでは、進路先考慮中・進路の取組をしていない生徒は6割を超えていたが、「事後アンケートでは生徒の8割が「実現できそうな目標は立てられた」、7割が「将来のイメージが具体的に became」と答えており、「カタリバ」は自らの進路目標の決定とそれに向けた取組への動機付けにより機会となった。



「大学生とのワークショップ」活動後の生徒の変容のグラフ

- 9月に実施した3学年と社会人とのワークショップでは、ほぼ全員が進路目標の実現に集中している3年生が、進路を実現した社会人として地域で活躍している先輩から、現在の心境を聴きながら本音で語り合えるワークセッションをおして交流した。事後アンケートでは生徒全員が「満足、とっても満足」、6割の生徒が「期待が増えた」と回答している。
自分の将来について実感を伴いながら考えることができ、満足度が高い取り組みとなっている。



「社会人とのワークショップ」活動後の生徒の変容のグラフ

(2) 大学等との連携

- 全学年を対象に8月に大学の出張講義を実施した。また、1年生では10月、2年生では11月にそれぞれ大学や専門学校等の進路体験学習を実施した。それぞれの体験を通して、進学に向けての視野を広げるとともに、様々な職業とその実現方法についての理解を深めた。出張講義を受けた2年生の生徒の感想に「自分の興味に沿った面白い講義でした。ただ、難しいところもありもっと勉強しなければと思いました。来年もお願いしたい」とあり、進学への理解が深まり、高校の学習への意欲を向上させる効果がみられた。
- 1年生で9月に実施した「職業講話」では、キャリア教育アドバイザーを講師に呼び、生徒自身の将来の職業について考えさせ、その実現のために今後の高校生活をどう過ごすかについて考えさせた。

(3) 長期企業実習等

- 3年生において、夏季休業中に6社の企業と連携し、生徒6名が、事前訪問も含めて計5日間の長期企業実習を実施した。接客業を体験した生徒の感想に「最終日になって一番積極的にお客さまに話しかけることができました」とあり、長期間実施することにより、コミュニケーション力等の向上により一層の効果がみられた。

7 今後の取組方針

- 本実践において確立された、先輩、大学生、社会人と連携した循環的なワークショップの取組を今後も維持、継続、発展できるよう、実施方法の工夫と改善、地域の機関や人材との連携と協力をより一層推進する。
- 今後も本実践に関係した地域や企業との結びつきを強め、生徒全員のインターンシップを実現できる環境作りを図っていく。

8 参考資料

(1) 大学生等とのワークショップの様子 (写真)

- 1年生と3年生のワークショップ



参加	1年生122名 3年生25名
形式	3年生1名と1年生5名のグループ別活動
時間	30分ずつ2回
内容	アイスブレイク、3年生の語り、先輩と後輩の対話、グループ全体の対話を行う

- 2年生と大学生のワークショップ「カタリバ」



参加	2年生122名 大学生33名
形式	大学生1名と高校生5名のグループ別活動
時間	50分ずつ2回
内容	大学生の体験談を聞いたり悩みを相談したりする対話式のワークショップ

- 3年生と社会人のワークショップ



参加	3年生150名 社会人18名
形式	社会人1名と高校生5名の小グループ3つで構成されたグループ別活動 大学生1名と高校生5名のグループ別活動
時間	30分ずつ2回のセッション、30分のまとめ
内容	大人である社会人とのコミュニケーションを経験することで、コミュニケーション能力を高める。

(2) 大学等との連携の様子

○ 1年生進路体験学習



参加	1年生122名
形式	希望職業別体験学習
時間	1時間
内容	職業別に、大学や専門学校から講師を招いて体験学習を実施

(3) 長期企業実習について

○ 2年生事務情報科インターンシップ (6月)



参加	2年生普通科35名 事務情報科20名 3年生6名
形式	地元企業の職場体験
時間	2年生4日、3年生5日
内容	体験を通して、望ましい勤労観や職業観を形成し、コミュニケーション能力を育てるとともに、今後の進路選択に役立つ

○ 2年生普通科インターンシップ (7月)



〔平成26年6月11日〕
北海道新聞記事